

# HAND in HAND 04

東久留米市内社会福祉法人連絡会広報紙

みんなをつなぐ広報紙

May 2023

## やさしさを、具体化する



東海林 正樹 連絡会副会長  
(三育ライフ 理事長)



6月30日(金)午後2時~の総会で、多摩の里けやき園と弥生地区住民の取り組みを報告します。ご参加ください



←都内における好事例として活動が冊子に掲載されました

住民主体の秋祭り(けやき園にて)

### 第7回総会 連絡会副会長による閉会挨拶より

福祉というのは一般社会の中で優しさを具体化する組織だと思うんです。

私たちが今福祉の現場で見ている風景と本当は福祉の現場でこういう風景を見たい、そしてもっと言えば、見なければならぬ風景があると思うんですよ。

今の私たちが見ている風景はちょっとため息をついたりうなだれたりというようなことも正直なところあるかもしれない。でも本当は福祉の現場に来ていただくことで、そうだよな、こういう生き方が人としての本来だよなと、みんながほっと出来るようなそういう現場を私たちは見ておきたいし、本当は目指していくべきではないのかな。

確かに、それぞれの現場は様々な課題を抱えていて余裕をもってられないという現状が一方ではあると思いますけれども、それでもなお、やっぱり私たちはこういう風景を見なければならぬし見ていくんだと。そうすることで結果として人は集まってくるのではないかと思うのです。

そういうサービスを私たちが私たちの現場で提供していくことが地域の優しさの維持に繋がるのではないかと本日お話ししながら改めて感じました。

東久留米市内社会福祉法人連絡会 副会長 東海林 正樹

※紙面の都合上、閉会挨拶より一部を抜粋しています

# 報告

## 14法人16人が活発な情報交換

情報交換・交流分科会では、去る2月15日（水）、法人間の良い出会いを通して互いの強みを発見し活かす方法を共有する場として、情報交換会を開催しました。

当日は、実際にあった豪雨による水害の事例を学び、本市における災害対策を聞いた後、事業所間で相互に連携できることについて情報交換しました。



### 【事例提供】保育園の水害事例（安心会 所沢すこやか保育園）

#### 『豪雨による床上浸水。その時、現場はどうなる？』

平成28年8月に発生した東川の氾濫により床上浸水の被害に遭遇。そのとき、現場はどう対応したか、また復旧までの道のりについてお話を伺いました

写真：浸水した給食室（左）とエントランス（右）→



### 【情報交換】テーマ：災害時に施設間で連携できること

- ・顔と顔が見える関係ができていれば、自分たちの施設の安全を確かめた後、お互いに困っていることを聞きに行くなど連絡が取れるのではないか
- ・早朝や夜間に発災した場合の職員体制や連絡に不安がある
- ・施設だけではなく、近隣住民との連携、巻き込んだ形での備えを進めていきたい



### 参加者アンケート結果（回答率 85.7%）

- ・参加の施設種別 →高齡3、障がい5、児童3、その他1
- ・法人間の良い出会いがありましたか？ →あった9、なかった0、わからない3
- ・お互いの強みの発見と活かす方法の共有はありましたか？ →あった8、なかった0、わからない4

### ★自由意見★

#### 【水害事例について】

- ・実際に起こった水害では、写真をみて恐怖感を覚えた（高齡）。
- ・水害についての情報も写真や時系列の資料があり、大変わかりやすかった（児童）。

#### 【情報交換について】

- ・何かあったときに声をかけあうことは安心感につながると思った。お互いに関係作りができ、そこから協力体制へつながっていくといいのではと感じた（児童）。
- ・各施設の取り組みがとても参考になった。特に職員への連絡方法、機器については、施設で検討していきたい（高齡）。
- ・高齡、障がい、児童の関係施設が一堂に会する機会が少ないため交流できてよかった（障がい）。

今回の情報交換会をステップに、今年度も情報交換や研修の機会を予定しています。日ごろの課題などを持ち寄って、想いを共有しましょう！

## 会員法人の“わ”（会員紹介コーナー）

皆さまの「もっと知りたい、知らせたい」にお応えして、会員法人（事業所）の魅力や活動情報をお届けします。今号は、『ユーカリ福祉会 東久留米市立上の原さくら保育園（上の原1-2-44／保育園）』を紹介します。



季節とともに  
自然といきる

社会福祉法人ユーカリ福祉会は昭和55年4月に創設し、現在は東京に4園、千葉県に6園、神奈川に4園の保育園を運営しています。上の原さくら保育園は平成22年4月に開園し、今年で14年目を迎えました。

園庭には田んぼがあり、毎年年中・年長さんが稲を植え秋には収穫したお米を園庭で炊いて食べたり、梅干しつけや味噌作りなども子ども達と行っています。園庭には大型遊具やトランポリンがありますが、実のなる木も沢山あり、さくらんぼやみかんなど季節ごとに味わっています。園には、チャボとウサギとかめ、文鳥・熱帯魚がいて、月に一回2頭のポニーとふれあえる行事もあり、その時に、地域の子育て中の親子にも参加して頂き喜ばれています。

0歳から2歳までは年齢別保育、3歳から5歳は異年齢混合保育を行っており、お散歩にもたくさん出かけ、地域の皆様からもたくさん声をかけていただいています。今後とも地域に根付いた保育園となれるよう頑張っていきたいと思っています。



## 令和5年度の事業計画が決定しました

誰もが住みやすく、安心して暮らせる地域づくりの推進に寄与するために、①会員法人同士が相互に情報交換を行い、それぞれの専門性を活かして地域のニーズや課題を受け止め、連携・協働により地域公益活動等に取り組みます。②地域のニーズや課題の解決に向けた方策について3つの分科会（情報交換・交流、事業検討、広報）を中心に検討し、必要なアクションを起こします。\*具体的内容は、各分科会で立案し、会員法人はその使命と役割（=強み）を活かして、得意な分野で活動します（分科会ごとの事業計画は、以下のとおりです）。

### 合同研修会や情報交換会の実施 ～共通の課題に関する研修や情報交換会の企画～

定期的に（2か月に1回）集まりを持ち、分科会内での情報交換とオンラインでの合同研修会の企画を行います。

今年度は、各法人の現場職員も交えての情報交換を企画します。



### 広報紙の発行を通して お互いの理解が深まるよう活動します

市内社会福祉法人連絡会の活動を地域の皆様や関係機関に知って頂けるよう、広報紙の発行を年3回行っています。

今年度は、法人連絡会での取り組みや研修会の様子をお知らせし、理解が深まるように活動していきます。また、毎号交代で、障がい・児童・高齢と3分野の法人をご紹介して、より身近に感じていただけるよう活動します。



### 法人・施設の特性を活かした役割について検討 ～「食品ロスを防ぐ」取り組み～

市内で取り組みが見られ始めた「食品ロスを防ぐ」活動に関連して、地域に点在する法人・施設の特性を活かした役割の検討を進めます。

各法人が可能な範囲でかつ多様な関わり手法で取り組みに参画することで連携し、次につながる活動に進化するよう工夫します。



#### 【発行情報】

発行人 東久留米市内社会福祉法人連絡会  
発行日 令和5年5月31日  
連絡先 同連絡会事務局（滝山4-3-14 社協事務局内）  
電話 042-471-0294 ファクス 042-476-4545  
メール info@higashikurume-shakyo.or.jp

